

今回 PHIJ の参加は院長に誘われたのが動機です。

当院は新規開業してもうすぐ3年になります。当時衛生士は私と新卒の後輩と2人でした。私も歯周治療の臨床経験がなく院長を含め3人ともが初心者なので歯周治療の知識と技術の向上を図るため参加させて頂きました。

MTM・歯周治療の基本知識の再確認ができ、全身疾患との関わりやその他のリスク、歯肉退縮のことや歯周外科と新たな知識を学びました。今後も復習をし臨床に活かしていこうと思います。でも私の一番の学びは、OP 歯科を目指す新規開業歯科医院で開業当時から働く衛生士としての覚悟とプロ意識の再認識ができた事です。

当院は開業時から『MTM をするぞ!』と徳本さんのご指導のもと院長からも『うちの歯科の主役は衛生士だから!』とお言葉を頂く中、必死に頑張ってきました。

今では初診患者さんのほぼ全員にサリバテストをるところまではきました。

ですがカリエス、ペリオのリスクコントロールができていないのが課題です。

特にペリオに関してはSRPによるアプローチはしても患者さんの隠れたリスク（喫煙や全身疾患）に対するアプローチはできていませんでしたし、理解していませんでしたし、そこまで把握する覚悟も余裕がないを理由に持てていませんでした。

ですが PHIJ を受講して衛生士としてその必要性を実感できたので少しずつ患者情報を増やしていこうと思います。

あと私が感じた事は OP 歯科はチームワーク医療だということです。

それは歯科医師、衛生士だけではなく医院で働くスタッフ全員で作ってあげていくことだと思いました。正直、当院は OP 歯科として今まで個々が無理して頑張ってきたと私は感じています。

少人数という問題もありますがやはり個々の力の限界を感じ、連携の必要性を強く感じました。

PHIJ でつきやま歯科の経緯を聞かさせて頂いたり生き生きとした衛生士さんを見てみると本当に輝いてみえますしチーム医療が存在しているなと羨ましく思いました。

ぜひ当院もそうでありたいなと改めて強く思いました。

大変ではありますが、MTM は私が患者としても受けたい歯科医療ですし衛生士としても提供したい歯科医療だと実感しています。ですがそれを実現し続けるためには環境が必要だと思います。

当院の課題としてはまず環境整備（チーム医療を成立させるための環境）としてスタッフ全員に OP 歯科である認識を高めていくことだと感じました。そのためには私が衛生士として MTM の臨床を伝えるべきだと、院長と話し合っ分り次に入る新卒の後輩が働きやすい環境を作るためにも新たに現状と向き合い改革していく覚悟もできました。

私がこのような覚悟を決めたのは PHIJ でプロ意識の高い方々と出会い学んだおかげです。

まだまだこれからですが気持ち新たに自分なりに少しずつ頑張っ課題を解決していこうと思います。9ヶ月間本当にお世話になりました。今後ご指導等よろしくお願い致します。

